

に2分し、上下の重量差を平均重量で除して値を分離度とした。その結果を表-2に示すが、その結果は、材料分離はほとんどなく、セメント量にも影響されないと思われる。

(3) 流動性

グラウトの流動性は、開粒度アスコンへの浸透性及び現場における施工性に大きな影響を与える。そこで、各配合の混合時間とフロータイム（J ロートによる）の関係を調査した。試験結果を図-3に示す。図-3において、実線は練り混ぜを継続して行った試料であり、破線は練り混ぜを10分行いその後静止しておいた試料である。当然のことながらセメントの割合が多くなる程フロータイムは大きくなった。また練り混ぜを継続すれば、 $C/A=0.4$ まではフロータイムがほぼ一定であった。しかし、静止した場合には、セメントの凝結の為にセメント量の多い程フロータイムが大きくなる。

(4) 浸透試験

グラウトのフロータイムと浸透率の関係を図-4に示す。なお浸透率は、マーシャル供試体にグラウトを流し込み、その切断面をプランメーターで測定し浸透率（浸透面積÷全体の面積%）とした。また、フロータイムの調整は、グラウトに水を加えて行った。図-4より、全浸透を目標とする場合のフロータイムは12以下が望ましいようである。

(5) 添加水の影響

① フロータイムに対して

添加水とフロータイム（ $C/A=0.4$ の場合）の関係を図-5に示す。図-5より、添加水を加えれば、当然フロータイムは下がってくる。したがって、目標フロータイムを12とすれば、110 cc 添加水を加えてやれば、全浸透することがわかる。

② 圧縮強度に対して

水を加えれば、圧縮強度に大きな影響があると思われるので、 $C/A=0.4$ について圧縮試験を行った。その結果を、表-3に示す。表-3より水を加えると圧縮強度は、若干影響をうけることがわかる。

3. おわりに

セミ半剛性舗装については、グラウト材の強度とセミ半剛性舗装の強度の関係等、まだまだ調査研究が必要であると考えられ今後も調査を続けていく予定である。

最後に、種々御指導いただいた大阪市立大学山田助教授に謝意を表します。

【参考文献】

三瀬・山田 外：セメントアスファルト含浸開粒度アスコンによる耐流動舗装に関する研究

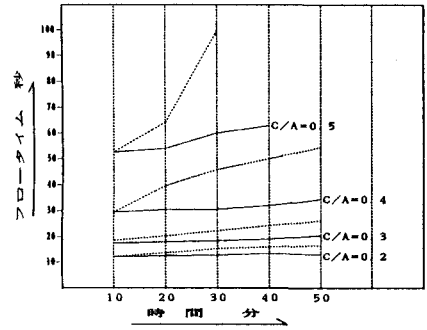


図-3 流動性試験結果

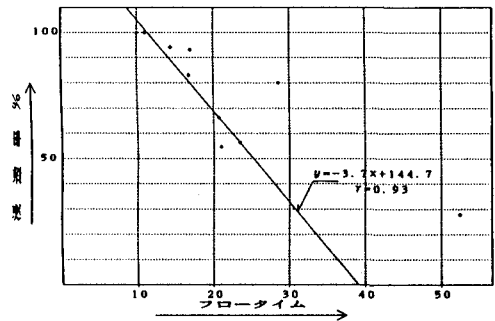


図-4 フロータイムと浸透率

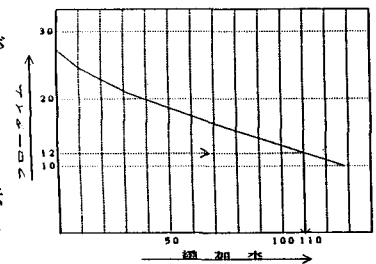


図-5 添加水とフロータイム

表-3 添加水と圧縮強度

配 合		$C/A=0.4$			
添 加 水		0	67 g	100 g	129 g
圧 縮 強 度 kg/cm ²	1 日	10.2	7.1	9.0	7.3
	7 日	20.0	19.1	20.0	17.0
	14 日	24.9	22.7	—	19.5
	28 日	29.1	25.0	26.0	21.6